

過疎と高齢化－鹿児島県下^{こしき}甑村高年者調査－

The Depopulation and Aging of Population In Regional Areas
-Report on Research in Shimo-Koshiki Village, Kagoshima Prefecture-

吉 良 伸 一
Shin-ichi Kira

ABSTRACT

Since 1960, there has been a shift in population to the Tokyo, Osaka and Nagoya areas, with resulting depopulation of regional areas. In the 1980s, the shift in population continued only to the Tokyo area. Because of this population concentration and the decline of total special birthrate, depopulation of regional area become more serious problem. Kagoshima Prefecture is the most serious area of depopulation in Japan and the single elderly person households and elderly couple households are the most high rate in Japan. The percentage of the total population over age 65 has increased more than 30% in Shimo-Koshiki Village. This report is about elderly persons in Kagoshima Prefecture and Shimo-Koshiki Village.

はじめに

1990年の全国の過疎地域の人口は85年に比べ5.7%減少し、65歳以上の高齢者の割合は20%を超えている。過疎地域の5年毎の人口減少率は70年に13.5%で底を打った後は減少に歯止めがかかり、80年から85年の3.7%まで縮少した。85年から90年では再び5.7%と上昇し再び厳しい過疎化の進行が懸念されている。人口と資本の東京一極集中などによる社会減に加えて人口の高齢化と出生率の低下に伴う自然減の相乗効果が見られる。鹿児島県は全県に対する過疎地域の人口率・面積率いずれにおいても全国一の過疎県である。65歳以上の高齢者の割合も1990年で16.6%と島根県・高知県に次ぐ全国3位の高齢県である。本稿は鹿児島県の過疎化・高齢化状況を高齢者の家族状況を中心に分析しながら、県下でも最も過疎化・高齢化の激しい地域である下甑村の高年者調査を報告する。過疎化・高齢化のいわば底辺からの報告である。

1. 鹿児島県の過疎化・高齢化状況

1992年4月1日づけで全市町村に占める過疎市町村の割合は大分県が全国一となった。過疎地域活性化特別措置法に基づく国土庁の指定で新たに津久見市と大山町が追加されたため、鹿児島県の75.0%を抜き77.6%となったためである⁽¹⁾。鹿児島県は96市町村の内4市59町9村が過疎地域に指定されている。1991年4月現在の数字であるが、全県に対する過疎地域の人口は

鹿児島県が36.5%・大分県24.3%・全国6.2%である。両県とも全国平均よりかなり高いが大分県は鹿児島県・秋田県(26.4%)・島根県(24.7%)に次ぎ全国4位である。面積率では鹿児島県が74.6%次いで大分県70.5%(全国46.4%)となっている。鹿児島県が人口率・面積率とも群を抜いていることがわかる。

1980年から85年、鹿児島県過疎地域の人口減少率は2.5%にとどまった。第二次ベビーブーム・少子化による定住志向・地方都市の成長によるものもあったが、流出余力の低下によるところも大である。85年から90年再び4.8%の減少となっている。全国平均よりは小さいが、過去の過疎化によって流出余力そのものがなくなったというべきであろう。

1990年国勢調査での65歳以上の高齢者の割合は全国12.0%にたいして鹿児島県が16.6%である。島根県18.2%・高知県17.2%に次ぎ全国3位である(表1-1)。15歳未満の年少人口は全国18.2%にたいして19.9%とかなり高い。15から64歳の生産年齢人口が少ないためである。鹿児島県過疎地域の65歳以上の割合は21.8%・全国過疎地域平均20.8%よりやや高い。過疎地域の高齢者率が高いのは山口県(26.0%)・広島県(25.1%)・島根県(24.3%)など中国地方に多い。鹿児島県では38市町村が人口の減少・配偶者難・少子化などによって自然減はさらに進むものと見られる。また、過疎地域でもっとも多数を占めている年齢層は50・60歳代であるが、今後この年齢層のリタイアがすすむ。これまでこの年齢層が地域の産業を支えてきたが、

表1-1 都道府県別高齢者率

県別年齢別 人口構成	昭和60年				平成2年				県別年齢別 人口構成	昭和60年				平成2年			
	総数	0-14	15-64	65-	総数	0-14	15-64	65-		総数	0-14	15-64	65-	総数	0-14	15-64	65-
全 国	100.0	21.5	68.2	10.3	100.0	18.2	29.5	12.0	三重県	100.0	21.2	66.6	12.1	100.0	18.4	68.0	13.6
北海道	100.0	21.4	68.9	9.7	100.0	18.3	69.5	12.0	滋賀県	100.0	23.4	65.8	10.8	100.0	20.4	67.4	12.0
青森県	100.0	22.2	67.4	10.4	100.0	19.5	67.5	12.9	京都府	100.0	20.8	67.9	11.2	100.0	17.2	69.8	12.6
岩手県	100.0	22.5	66.6	11.9	100.0	19.0	66.4	14.5	大阪府	100.0	21.3	70.3	8.3	100.0	17.2	72.7	9.7
宮城県	100.0	22.1	68.0	9.9	100.0	19.5	68.3	11.9	兵庫県	100.0	21.8	67.9	10.3	100.0	18.3	69.4	11.9
秋田県	100.0	20.0	67.4	12.6	100.0	17.9	66.5	15.6	奈良県	100.0	22.1	67.7	10.1	100.0	17.9	66.7	15.3
山形県	100.0	20.3	66.3	13.4	100.0	18.6	65.1	16.3	和歌山県	100.0	20.7	66.1	13.2	100.0	17.9	66.7	15.3
福島県	100.0	22.1	65.9	11.9	100.0	20.1	65.5	14.3	鳥取県	100.0	21.2	65.0	13.7	100.0	19.2	64.5	16.2
茨城県	100.0	23.0	66.7	10.2	100.0	19.6	68.3	11.9	島根県	100.0	20.5	64.2	15.3	100.0	18.4	63.3	18.2
栃木県	100.0	22.8	66.7	10.5	100.0	19.6	68.0	12.3	岡山県	100.0	21.3	65.6	13.0	100.0	18.3	66.8	14.8
群馬県	100.0	22.1	66.7	11.2	100.0	18.7	68.2	13.0	広島県	100.0	21.8	66.7	11.5	100.0	18.4	68.0	13.4
埼玉県	100.0	23.5	69.2	7.2	100.0	18.7	72.8	8.3	山口県	100.0	20.8	65.9	13.3	100.0	17.7	66.3	15.9
千葉県	100.0	23.2	68.9	7.9	100.0	18.6	71.9	9.2	徳島県	100.0	20.4	66.3	13.3	100.0	18.0	66.3	15.5
東京都	100.0	18.0	73.0	8.9	100.0	14.6	74.1	10.5	香川県	100.0	21.0	65.7	13.3	100.0	18.1	66.5	15.4
神奈川県	100.0	21.5	71.0	7.5	100.0	17.2	73.6	8.8	愛媛県	100.0	21.3	65.8	12.9	100.0	18.5	66.0	15.4
新潟県	100.0	21.1	66.1	12.8	100.0	18.7	66.0	15.3	高知県	100.0	20.1	65.3	14.5	100.0	17.5	65.0	17.2
富山県	100.0	20.9	66.2	12.8	100.0	17.5	67.3	15.1	福岡県	100.0	21.8	67.6	10.6	100.0	18.9	68.3	12.4
石川県	100.0	22.1	66.1	11.9	100.0	18.5	67.5	13.8	佐賀県	100.0	22.3	64.7	13.0	100.0	20.2	64.6	15.1
福井県	100.0	21.5	65.6	12.8	100.0	18.9	66.2	14.8	長崎県	100.0	22.7	65.1	12.1	100.0	20.3	65.0	14.7
山梨県	100.0	20.8	66.3	12.9	100.0	18.3	66.8	14.8	熊本県	100.0	21.2	65.7	13.2	100.0	19.3	65.1	15.4
長野県	100.0	20.9	65.5	13.6	100.0	18.2	65.7	16.1	大分県	100.0	21.3	65.6	13.1	100.0	18.7	65.7	15.5
岐阜県	100.0	22.1	67.0	10.9	100.0	18.8	68.5	12.7	宮崎県	100.0	23.0	65.0	12.0	100.0	20.5	65.1	14.2
静岡県	100.0	22.3	67.5	10.3	100.0	18.9	68.9	12.1	鹿児島県	100.0	21.6	64.2	14.2	100.0	19.9	63.4	16.6
愛知県	100.0	22.4	69.1	8.5	100.0	18.5	71.5	9.8	沖縄県	100.0	27.4	64.0	8.6	100.0	24.5	64.9	9.9

地域産業の担い手が本格的に枯渇していくのはこれからである。

90年の国勢調査では65歳以上の高齢者一人だけの世帯は65歳以上のいる一般世帯の15.1%となっている(表1-2)。鹿児島県は29.9%にのぼり全国でその割合がもっとも高い。次いで高知県(23.3%)・大阪府(21.2%)・東京都(20.4%)・宮崎県(20.3%)となっている。85年の国勢調査では全国で12.7%・鹿児島県28.0%とわずかの増加がある。ちなみに一人暮らしの割合が低いのが山形県の7.3%(85年5.5%)・新潟県8.2%(6.6%)・富山県8.6%(6.7%)・茨城県9.1%(7.7%)である。その差は縮小しているとはいえ東日本と西日本の差異は大きい。夫婦のいずれかが65歳以上の夫婦のみの世帯の割合も全国20.7%にたいして鹿児島県は31.7%と全国でもっとも多い。次いで北海道29.5%・宮崎県27.1%・東京都25.8%・山口県25.8%である。少ないのは山形県11.3%・富山県13.2%・新潟県13.4%・福井県13.5%などとなっている。鹿児島県の場合、高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯がきわめて多く、高齢者問題を深刻化させるとともに、地域社会の中で高齢者だけの世帯が多いため地域社会が維持できなくなる可能性が高い。

一般世帯にいる65歳以上の高齢者について個人単位で家族形態を分類したものが表1-3である。ここでは施設等への入所者をのぞき在宅の高齢者についての分析となる⁽²⁾。全国では在宅の高齢者の39.6%が核家族的世帯・45.9%が拡大家族的世帯(夫婦と片親・夫婦子どもと両親・夫婦子どもと片親・夫婦と他の親族・夫婦親と他の親族・夫婦子ども親と他の親族)・単独世帯に11.4%・その他(兄弟姉妹・他に分類されない・非親族世帯)に1.8%となる。鹿児島は核家族的世帯54.5%・拡大家族的世帯19.7%・単独世帯22.7%となる。全国では65歳以上の高齢者の約半数が核家族的世帯か単独世帯であるが、鹿児島ではじつに4分の3におよぶ。

同じく65歳以上の一般世帯の高齢者について、国勢調査の家族分類から夫婦と子ども・片親と子ども・夫婦と両親・夫婦と片親・夫婦子どもと片親・夫婦子どもと他の親族・夫婦親と他の親族・夫婦子ども親と他の親族に含まれる65歳以上の割合を同居率とする。

正確には子どもが65歳以上の場合など同居率とやや異なるが、近似的にかなり近い数値がでてくる。一般世帯に住む人数を一般世帯の65歳以上の人数で割って一般世帯65歳以上率とする。ほぼ在宅の高齢者率と考えることができる。表1-2の右端2列の数値である。縦軸にこの近似的同居率、横軸に在宅高齢者率をとって各都道府県をプロットしたものが図1-1である。この分散散布図の両軸はともに一般世帯の65歳以上の人数である。この種の散布図は多いが、両軸の数値が同一な母集団に含まれていないものが多い。統計学的に問題がある。同居率の代わりに核家族率と独居世帯を加え核家族的世帯率としたものもある。両者を同じ種類のもののみなし加えることにやや無理がある。ここでは通常の数値とやや異なるが、同居率と高齢者率の近似値としてこのふたつの数値を用いる。

この図のほぼ高齢者率12%・同居率60%のところ全国平均がくる。これは厚生省の国民生活基礎調査などの数値とほぼ一致している。高齢者率12%と同居率60%を境に各都道府県がきれいに分かれる。高齢者が多く、かつ同居率が高いのは東北・北陸の各県である。高齢者が高く、同居率が低いのが西日本の各県である。高齢者率12%以下には大都市圏が多い。鹿児島県は高齢者が多くかつ同居率が低い西日本型の中でもずば抜けている。高知県が鹿児島県に近い。これは鹿児島県などの西南九州では末子相続や隠居分家などの不定相続の慣習があり、結婚した子夫婦と親との同居が避けられていたこと、明治以降県外に人材を送り出してきたことなどによるものと思われる。

表1-2 一般世帯家族類型（一般世帯全体・65歳以上のいる世帯）

	一般世帯数	核家族的世帯率	拡大家族世帯率	単 独世帯率	65歳以上のいる世帯	核家族的世帯率	拡大家族世帯率	単 独世帯率	その他	同居率	65歳以上人員率
全国	40670475	59.5	15.5	23.1	10729464	35.4	45.7	15.1	3.7	59.5	11.8
1 北海道	2015275	63.5	10.4	24.5	469034	43.0	35.4	18.4	3.3	46.8	11.4
2 青森県	453425	55.7	23.1	18.8	139359	27.9	54.9	12.2	5.1	66.8	12.6
3 岩手県	426288	51.0	27.0	19.7	146884	26.4	59.4	10.0	4.2	71.3	14.2
4 宮城県	692436	53.1	22.1	22.9	192168	27.6	59.3	9.5	3.7	71.3	11.8
5 秋田県	357557	50.0	31.9	15.9	138057	24.5	62.2	9.5	3.8	72.0	15.2
6 山形県	340521	45.2	38.2	14.6	145716	21.4	67.9	7.3	3.4	77.9	16.1
7 福島県	603712	52.3	28.2	17.6	213769	27.6	59.8	9.1	3.4	72.5	11.8
8 茨城県	829549	58.3	23.0	17.0	242599	27.6	59.8	9.1	3.4	72.5	11.8
9 栃木県	571473	56.2	23.8	18.3	171151	27.0	60.1	9.5	3.4	72.8	12.2
10 群馬県	600222	59.7	20.8	17.7	182535	31.9	53.8	11.0	3.3	67.5	12.9
11 埼玉県	2027970	66.4	12.4	19.7	385428	36.1	50.0	10.4	3.5	67.4	8.1
12 千葉県	1797429	63.7	13.2	21.5	370780	35.4	49.4	11.5	3.8	65.2	9.0
13 東京都	4693621	55.3	6.3	35.9	917542	48.7	26.7	20.4	4.1	47.8	10.4
14 神奈川県	2817902	62.9	8.6	26.9	516087	44.4	37.4	14.5	3.7	56.0	8.7
15 新潟県	705002	50.6	31.3	16.3	268379	24.8	63.6	8.2	3.4	74.6	15.0
16 富山県	312401	50.8	33.1	14.3	121096	22.6	65.4	8.6	3.4	74.5	14.6
17 石川県	358678	51.2	24.6	22.3	115623	26.1	58.9	11.4	3.6	67.6	13.3
18 福井県	232848	49.3	31.9	17.0	87579	22.5	64.0	10.1	3.4	72.6	14.4
19 山梨県	262195	57.5	21.7	19.0	90322	32.6	51.7	12.4	3.3	64.9	14.6
20 長野県	655332	54.5	25.6	18.3	245316	29.9	56.5	10.5	3.1	67.7	15.9
21 岐阜県	601015	55.8	26.1	16.6	190578	25.2	62.1	9.6	3.1	71.6	11.9
22 静岡県	1115007	57.2	22.1	19.2	319724	28.1	58.8	9.7	3.5	64.9	9.6
23 愛知県	2160791	59.6	15.5	23.4	481000	31.5	52.7	12.3	3.4	64.9	9.6
24 三重県	544844	58.1	22.9	17.4	176029	29.2	53.9	13.6	3.3	63.1	13.3
25 滋賀県	350673	57.0	24.9	16.6	108468	24.6	61.9	10.3	3.3	71.5	11.9
26 京都府	893733	58.7	12.9	26.4	237949	37.8	40.0	18.2	4.0	53.8	12.3
27 大阪府	3039638	65.1	8.3	24.6	628378	42.7	31.7	21.2	4.3	48.6	9.4
28 兵庫県	1774925	64.3	13.3	20.6	473922	38.3	39.8	18.1	3.8	53.9	11.7
29 奈良県	411215	64.0	19.0	15.3	115583	30.8	52.7	13.0	3.5	63.5	11.4
30 和歌山県	344155	61.6	18.7	17.7	120527	35.0	42.5	19.0	3.6	54.1	15.0
31 鳥取県	179133	51.5	29.3	17.1	71007	26.1	57.3	12.7	3.9	67.5	15.9
32 島根県	235014	51.2	28.7	18.2	99537	29.0	54.1	13.7	3.2	64.0	17.8
33 岡山県	607668	57.7	20.8	19.8	201073	32.0	49.6	15.0	3.4	59.1	14.4
34 広島県	974038	61.1	13.8	23.4	273853	38.3	39.7	18.6	3.3	50.8	13.1
35 山口県	534584	60.7	15.9	21.5	177456	38.4	38.8	19.2	3.6	49.9	15.2
36 徳島県	258149	55.2	23.8	19.1	90260	29.7	51.8	15.0	3.5	62.0	14.9
37 香川県	321453	58.0	21.6	18.6	110717	31.8	49.3	15.2	3.6	59.6	14.9
38 愛媛県	510897	61.1	15.7	21.2	166514	38.1	39.1	19.2	3.6	50.9	14.9
39 高知県	288577	59.5	14.2	24.1	99037	39.5	33.3	23.3	3.8	47.3	16.3
40 福岡県	1623805	60.7	12.9	24.3	423334	39.0	38.6	18.2	4.3	52.9	11.9
41 佐賀県	250178	55.1	26.6	16.3	93128	28.6	54.9	12.7	3.8	65.8	14.5
42 長崎県	501901	61.7	15.8	20.4	161720	37.8	38.4	19.9	3.9	51.7	14.0
43 熊本県	575227	56.8	20.7	20.3	196537	33.4	46.8	16.0	3.9	58.2	14.7
44 大分県	409347	58.3	18.3	21.6	136407	34.6	44.1	17.8	3.6	53.7	15.0
45 宮崎県	390730	63.9	13.6	20.5	117925	40.1	35.7	20.3	3.9	46.9	13.7
46 鹿児島県	656944	65.0	7.9	25.1	213311	46.3	20.4	29.9	3.4	33.0	16.0
47 沖縄県	362998	66.8	10.6	19.3	86066	41.3	33.0	19.7	6.1	56.8	9.5

- *核家族世帯には夫婦のみの世帯・夫婦と子ども・男親と子ども・女親と子ども
- *拡大家族世帯は夫婦と片親・夫婦子どもと両親・夫婦子どもと片親・夫婦と他の親族・夫婦親と他の親族
夫婦子ども親と他の親族
- *その他には兄弟姉妹・他に分類されない・非親族世帯

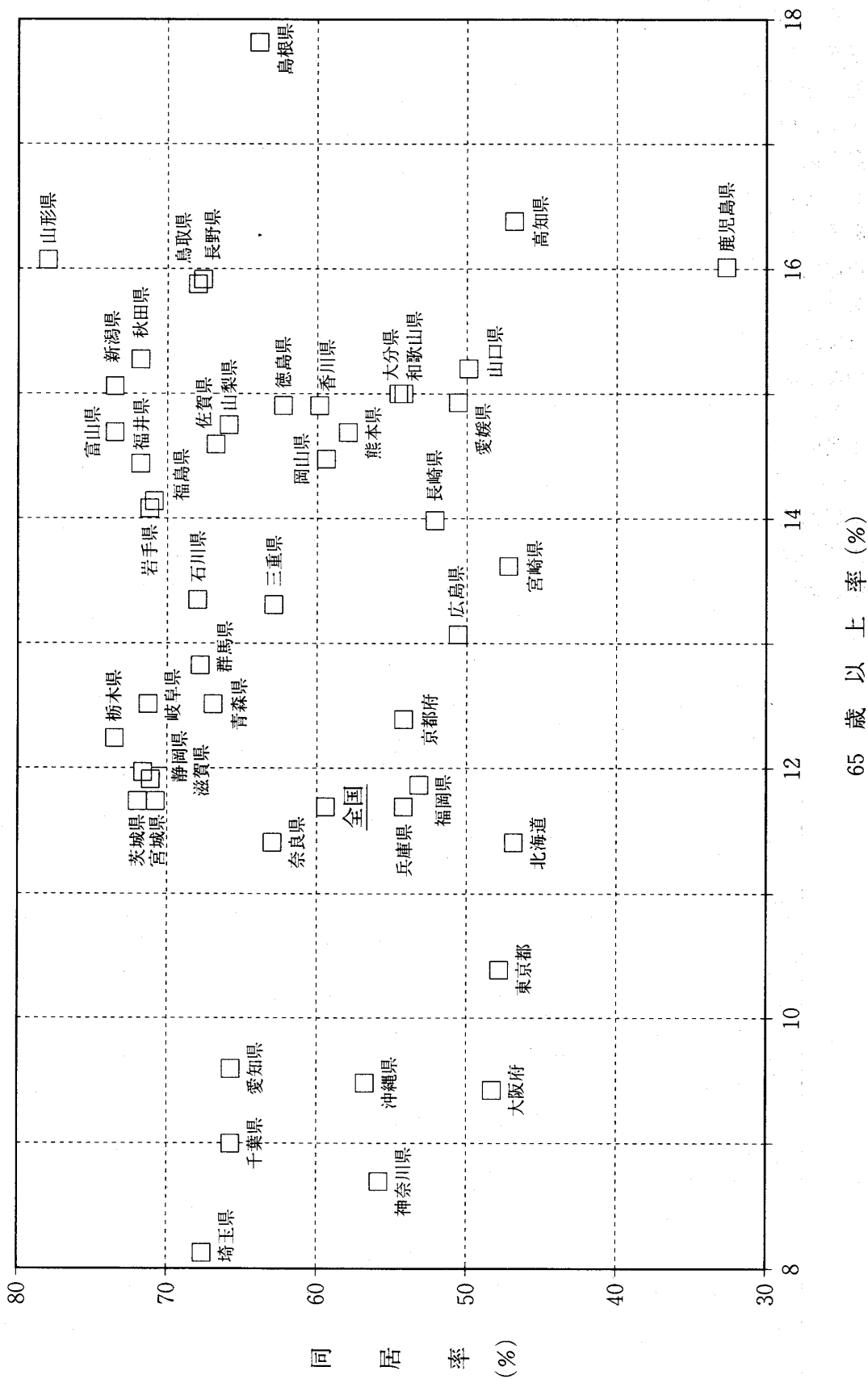
過疎と高齢化－鹿児島県下甑村高年者調査－

表1-3 一般世帯人員家族類型（一般世帯全体・65歳以上のいる世帯）

	一般世帯 人 数	核家族的 世 帯 率	拡大家族 世 帯 率	単 独 世 帯 率	そ の 他	65歳以上 人 員	核家族的 世 帯 率	拡大家族 世 帯 率	単 独 世 帯 率	そ の 他	同居	同居率
全 国	121545271	63.3	27.2	7.7	1.8	14233415	39.6	45.9	11.4	3.1	8454889	59.5
1 北海道	5498432	70.6	18.8	9.0	1.7	622564	48.8	34.7	13.8	2.6	291037	46.8
2 青森県	1453023	53.3	38.5	5.9	2.4	181731	30.6	55.9	9.4	4.1	121385	66.8
3 岩手県	1393012	47.1	44.6	6.0	2.2	196752	28.6	60.5	7.5	3.3	140249	71.3
4 宮城県	2212922	53.1	38.0	7.2	1.8	259560	29.9	60.1	7.0	2.9	184957	71.3
5 秋田県	1206737	43.4	49.8	4.7	2.0	182918	26.7	63.0	7.1	3.1	131569	72.0
6 山形県	1242136	37.2	57.1	4.0	1.7	199145	23.2	68.8	5.3	2.7	155100	77.9
7 福島県	2075004	47.4	45.7	5.1	1.8	291494	29.1	60.8	7.2	2.8	208392	71.5
8 茨城県	2808091	56.3	37.2	5.0	1.5	329487	30.2	60.4	6.7	2.7	238655	72.5
9 栃木県	1912402	54.0	39.0	5.5	1.6	232023	29.4	60.9	7.0	2.7	168718	72.8
10 群馬県	1942836	58.5	34.4	5.5	1.6	248849	35.4	53.9	8.1	2.6	167902	67.5
11 埼玉県	6333176	71.3	21.0	6.3	1.4	510887	39.4	49.9	7.8	2.9	344087	67.4
12 千葉県	5487147	68.8	22.6	7.0	1.6	492696	38.7	49.5	8.6	3.1	320981	65.2
13 東京都	11613495	70.4	12.6	14.5	2.5	1197483	54.6	26.2	15.7	3.6	571904	47.8
14 神奈川県	7878827	73.2	15.6	9.6	1.6	680840	49.1	36.9	11.0	3.1	381109	56.0
15 新潟県	2443342	44.8	48.8	4.7	1.7	366378	27.2	64.1	6.0	2.7	273058	74.6
16 富山県	1101315	44.4	49.9	4.0	1.7	160215	24.8	66.0	6.5	2.7	119285	74.5
17 石川県	1142304	50.4	40.8	7.0	1.8	151816	29.2	59.2	8.7	2.9	102565	67.6
18 福井県	809880	44.2	49.3	4.9	1.6	116022	25.1	64.6	7.6	2.7	84153	72.6
19 山梨県	838798	56.4	35.9	5.9	1.7	122304	36.7	51.5	9.1	2.7	79326	64.9
20 長野県	2130166	51.5	41.3	5.6	1.6	337594	33.3	56.6	7.6	2.5	228302	67.7
21 岐阜県	2043542	52.5	41.2	4.9	1.4	255250	27.9	62.5	7.2	2.4	181863	71.3
22 静岡県	3627976	56.1	36.5	5.9	1.5	431487	30.5	59.5	7.2	2.8	308790	71.6
23 愛知県	6615775	63.9	27.1	7.6	1.4	633473	35.0	52.8	9.4	2.8	410955	64.9
24 三重県	178239	56.2	36.9	5.3	1.5	234375	33.1	53.9	10.2	2.8	147805	63.1
25 滋賀県	1210308	54.8	39.0	4.8	1.4	143410	27.5	62.0	7.8	2.7	102522	71.5
26 京都府	2554104	65.8	23.1	9.2	1.9	312763	43.1	39.6	13.9	3.4	168001	53.8
27 大阪府	8589098	74.6	14.8	8.7	1.9	804681	48.4	31.3	16.5	3.8	390732	48.6
28 兵庫県	532807	68.5	22.9	6.9	1.7	620695	43.3	39.7	13.8	3.2	334361	53.9
29 奈良県	135435	63.6	30.3	4.7	1.5	153404	34.5	52.8	9.8	2.9	97404	63.5
30 和歌山県	1058723	61.2	31.1	5.8	1.9	158040	39.9	42.5	14.5	3.0	85411	54.1
31 鳥取県	605483	46.4	46.5	5.1	2.0	96246	29.3	58.2	9.3	3.1	64893	67.5
32 島根県	765342	46.3	46.3	5.6	1.8	135919	32.4	54.9	10.0	2.6	86919	64.0
33 岡山県	1892509	57.4	34.6	6.3	1.7	271832	36.4	49.7	11.1	2.8	160600	59.1
34 広島県	2797450	66.1	24.1	8.1	1.7	364140	43.6	39.7	14.0	2.8	184908	50.8
35 山口県	1537491	63.2	27.4	7.5	1.9	232924	43.7	38.7	14.6	3.0	116174	49.9
36 徳島県	810136	52.8	39.3	6.1	1.8	120229	33.6	52.3	11.3	2.8	74508	62.0
37 香川県	1004177	56.6	35.7	5.9	1.8	149038	36.1	49.7	11.3	3.0	88786	59.6
38 愛媛県	1488913	63.7	27.1	7.3	2.0	221574	43.4	39.2	14.4	3.0	112740	50.9
39 高知県	800258	63.9	25.1	8.7	2.3	130178	45.1	34.0	17.7	3.2	61497	47.3
40 福岡県	4698261	66.3	23.1	8.4	2.2	555008	43.9	38.7	13.9	3.6	293283	52.9
41 佐賀県	859084	50.6	42.7	4.7	1.9	124127	32.2	55.2	9.5	3.1	81646	65.8
42 長崎県	1522268	63.5	27.7	6.7	2.1	212289	43.0	38.4	15.2	3.4	109657	51.7
43 熊本県	1793689	55.9	35.4	6.5	2.1	262390	37.5	47.2	12.0	3.3	152514	58.2
44 大分県	1210547	59.5	31.4	7.3	1.9	180732	39.3	44.3	13.4	3.0	97018	53.7
45 宮崎県	1143160	67.3	23.6	7.0	2.0	156227	46.2	35.3	15.3	3.2	73265	46.9
46 鹿児島県	1750903	74.4	14.1	9.4	2.1	279988	54.5	19.7	22.7	3.1	92163	33.0
47 沖縄県	1192238	73.0	18.1	5.9	3.1	112238	46.9	33.0	15.1	5.0	63740	56.8

*同居は夫婦と子ども・片親と子ども・夫婦と両親・夫婦と片親・夫婦子供と両親・夫婦子供と片親・夫婦子供と他の親族・夫婦親と他の親族・夫婦子供親と他の親族

図1-1 一般世帯に住む65歳以上の割合と同居率（近似値）の関連



過疎と高齢化－鹿児島県下甑村高年者調査－

鹿児島県の市町村について国勢調査から1985年と1990年の人口総数および年齢3区分別構成率を表にしたものが表1-4である。65歳以上の割合が30%を超えているのが三島村(31.8%)と薩摩半島南西部の笠沙町(30.3%)・大浦町(34.4%)そして甑島の上甑村(31.4%)・下甑村(30.1%)・鹿島村(32.8%)の6町村である。高齢化がもっとも進んでいるのは甑島と薩摩半島の西海岸、大隅半島南端の佐多岬、奄美大島の南部などである。以外なことにもっとも高齢化が進んでいるのは離島部ではなく鹿児島市内に比較的近い薩摩半島西海岸部である。日吉町・金峰町・吹上町などは鹿児島市から車で1時間以内である。大浦町・笠沙町・坊津町もほぼ2時間圏内である。この地域は耕地に乏しいことから戦前からの出稼ぎ地帯であった。また鹿児島市との距離も比較的近いことから、自由に行き来できるためかえて別居を促進している。その意味では県人口180万のうち53万を占める鹿児島市の一極集中の弊害といえるかも知れない。

高齢者の同別居形態について、統計資料に現れたものだけでは不十分である。表1-5は厚生省の人口問題研究所が1979年に実施した『人口の高齢化に伴う生活構造の変化に関する調査⁽³⁾』と、著者が実施した大島郡喜界町・下甑村・大浦町K集落調査から60歳以上の高年者の同別居形態をまとめたものである。東日本の同居率の高さ西日本特に鹿児島県の同居率の低さがよくわかる。鹿児島の場合、子どものところにいくのに1時間以内の近接別居は確かに多いが、遠距離の別居(その多くは県外)が大浦町や喜界町・下甑村では3分の1以上となっている。

表1-5 高年者(60歳以上)同居別居形態

	実数	同居	別 居			出 典 調 査 年
			1h以内	1h以上	小計	
東 京 都	731	69.9	17.8	12.3	30.1	厚生省 人口問題 研究所 1979年
広 島 市	540	55.2	27.8	17.0	44.8	
山 形 市	921	83.9	8.5	7.6	16.1	
宮 城 県 桃 生 町	456	93.0	2.6	4.4	7.0	
宮 城 県 志 波 姫 町	416	91.6	4.1	4.3	8.4	
宮 城 県 米 山 町	460	96.1	1.5	2.4	3.9	
鹿児島県大根占町	396	56.1	24.7	19.2	43.9	
鹿児島県祁答院町	482	59.3	14.3	26.3	40.7	
鹿児島県大浦町	378	37.3	22.5	40.2	62.7	
鹿児島県鹿児島市	90	38.9	44.5	16.7	61.1	(4)
鹿児島県喜界町	403	37.7	26.3	36.0	62.3	(5)
鹿児島県下甑村	270	27.0	17.8	52.6	73.0	1991年
大浦町K地区	99	18.2	33.3	48.5	81.8	1986年 (6)

鹿兒島県市町村別高齢者率

	1985 人口総数	15歳未満 人口率	15-64歳 人口率	65歳以上 人口率	1990 人口総数	15歳未満 人口率	15-64歳 人口率	65歳以上 人口率	人口増減 85-90
鹿兒島市	530502	22.8	68.1	9.1	536752	20.4	68.4	11.0	1.2
川内市	71444	22.5	63.9	13.6	71735	21.4	62.9	15.6	0.5
鹿屋市	76029	23.4	64.7	11.9	77655	21.7	64.1	13.9	2.2
枕崎市	30099	21.5	63.6	14.9	28794	19.5	62.6	18.3	-4.3
串木野市	30268	22.7	63.2	14.1	29385	19.8	63.5	16.6	-2.9
阿久根市	29185	19.4	62.9	11.0	46306	24.7	61.4	13.9	-6.9
名瀬市	49765	26.9	62.1	11.0	46306	24.7	61.4	13.9	-6.9
出水市	40084	22.2	63.0	14.8	38729	20.0	62.9	17.0	-0.8
大口市	26646	19.0	62.7	18.3	25700	17.5	60.3	22.2	-3.5
指宿市	33155	22.4	61.7	15.9	32008	20.2	61.0	18.7	-3.4
加世田市	25748	19.7	61.4	18.8	25088	18.4	60.3	21.3	-2.5
国分市	40931	21.1	66.3	12.6	46557	20.1	66.8	12.9	13.8
西之表市	22692	23.4	62.8	13.7	20952	21.2	62.0	16.8	-7.6
垂水市	23504	19.5	61.5	19.0	22264	17.8	56.5	22.7	-5.2
吉田町	8377	23.2	61.6	15.2	9824	22.8	61.1	16.2	17.3
桜島町	5593	18.1	65.7	16.2	5245	15.1	65.0	19.9	-6.2
三島村	552	18.5	54.5	27.0	503	14.3	53.9	31.8	-8.8
十島村	787	15.2	64.2	20.6	790	14.1	60.4	25.6	0.4
喜入町	12574	20.7	61.5	17.9	12518	19.1	60.5	20.4	-0.4
山川町	13113	21.1	62.8	16.1	12237	18.8	61.4	19.8	-6.6
穎娃町	17138	19.2	62.3	18.5	16407	18.5	59.5	21.9	-4.2
開闢町	8513	19.9	62.3	17.9	8047	19.3	59.5	21.2	-5.4
笠沙町	5135	15.5	59.9	24.6	4553	13.0	56.7	30.3	-11.3
大浦町	3764	13.7	57.7	28.6	3508	13.5	52.1	34.4	-6.8
坊津町	6541	17.2	60.3	22.5	5849	15.5	57.2	27.3	-10.5
知覧町	14721	18.3	62.3	19.4	14599	18.8	59.2	22.0	-4.8
川辺町	17330	18.2	60.9	20.9	16492	16.9	57.9	25.2	-4.8
市来町	7610	19.7	62.7	17.6	7405	19.0	60.4	20.6	-2.6
東市来町	14783	19.0	62.7	18.3	14203	16.5	60.9	22.6	-3.9
伊集院町	20032	22.5	63.7	13.8	21253	21.6	63.6	14.7	6.1
松元町	9495	23.7	62.7	13.6	9803	21.1	63.8	15.1	3.3
郡山町	8131	20.7	64.5	14.7	8110	18.6	63.5	17.9	-0.2
日吉町	6807	16.7	58.6	24.5	6461	15.7	56.0	28.3	-5.0
吹上町	11403	15.7	57.8	26.5	10758	16.3	54.3	29.4	-5.6
金峰町	9683	14.4	60.6	25.0	9115	15.3	55.3	29.4	-5.8
樋脇町	8722	20.3	59.9	19.8	8485	18.4	58.5	23.1	-2.7
入来町	6996	17.9	62.3	19.7	6707	18.7	57.4	23.9	-4.1
東郷町	6276	19.2	60.9	19.9	6056	17.7	59.5	22.8	-3.5
宮之城町	19457	18.8	61.8	19.4	18684	17.5	59.3	23.2	-3.9
鶴田町	5229	18.1	64.6	17.4	5092	17.6	60.4	22.0	-2.6
薩摩町	5598	16.3	61.8	21.8	5287	15.7	58.5	25.8	-5.5
祁答院町	5400	17.0	59.8	23.2	5101	16.7	56.0	27.3	-5.5
里村	1967	20.3	56.3	23.4	1753	17.4	54.0	28.6	-10.8
上甑村	2651	15.4	57.4	27.2	2315	14.5	54.2	31.6	-10.8
下甑村	3577	16.1	56.3	27.5	3247	15.0	54.9	30.1	-9.2
鹿島村	1072	13.0	60.1	27.0	1033	13.4	53.8	32.8	-3.6
野田町	5319	21.0	63.5	15.5	5085	19.2	62.2	18.6	-4.3
高尾野町	12999	21.4	62.7	15.9	13148	20.2	61.6	18.2	1.2
東町	8373	24.3	60.6	15.1	8101	22.8	59.1	18.1	-3.2
長島町	6067	21.8	61.7	16.4	5700	20.5	59.4	20.1	-6.0
菱刈町	10837	18.5	61.1	20.5	10446	16.5	58.5	25.0	-3.6
加治木町	23264	23.0	63.0	13.9	23834	20.7	63.0	16.3	2.5

過疎と高齢化－鹿児島県下甑村高年者調査－

始良町	35278	22.9	63.3	13.8	37154	20.5	63.4	16.0	5.4
蒲生町	8288	17.3	59.0	23.7	7801	16.1	56.8	27.1	-5.8
溝辺町	7854	22.4	64.4	13.2	8058	22.4	62.9	14.6	2.6
横川町	5937	17.1	62.4	20.4	5969	17.0	58.8	24.2	0.6
栗野町	9082	18.2	63.9	17.9	8749	16.7	61.1	22.1	-3.6
吉松町	4710	19.1	62.4	18.5	5102	17.5	62.4	20.2	8.4
牧園町	11195	20.1	63.4	16.5	10616	18.0	61.6	20.4	-5.1
霧島町	6118	18.4	65.2	16.4	5907	17.9	61.8	20.4	-3.4
隼人町	30079	20.7	65.0	14.2	31455	19.0	65.0	15.9	4.6
福山町	7815	17.1	63.8	19.0	7685	17.9	60.2	21.9	-1.6
大隅町	15805	19.2	64.4	16.4	14919	19.3	61.1	19.7	-5.6
輝北町	5049	17.2	64.7	18.1	4897	16.1	61.3	22.5	-3.0
財部町	11891	18.7	63.9	17.4	11597	17.7	61.3	21.0	-2.4
末吉町	21173	19.7	65.0	15.3	20976	18.9	63.1	18.0	-0.9
松山町	5436	18.8	64.8	16.4	5289	19.5	61.2	19.2	-2.7
志布志町	20248	21.5	63.9	14.6	19350	19.7	62.6	17.7	-4.4
有明町	12703	20.8	63.6	15.6	12677	21.5	60.4	18.1	-0.2
大崎町	17689	21.1	64.3	14.6	16828	19.6	63.5	16.9	-4.8
串良町	14058	21.3	64.4	14.4	13817	20.0	63.0	16.9	-1.7
東串良町	8254	19.1	62.6	18.2	8119	18.5	60.8	20.7	-1.6
内野浦町	6519	18.6	63.7	17.7	5744	15.7	61.7	22.6	-11.8
高山町	16436	19.9	63.7	16.3	15798	18.6	61.7	19.7	-3.8
吾平町	7517	20.8	63.9	15.3	7392	18.8	62.5	18.6	-1.6
大根占町	8992	19.2	62.9	17.9	8365	18.1	60.7	21.2	-6.9
根占町	8213	19.5	62.8	17.7	7768	17.7	61.6	20.8	5.4
田代町	4051	16.3	63.3	20.4	3874	15.7	60.3	24.0	-4.3
佐多町	5256	16.4	62.0	21.6	4758	14.3	57.9	27.8	-9.4
中種子町	11339	21.1	63.3	15.5	10552	19.8	61.1	19.1	-6.9
南種子町	7976	22.8	63.1	14.1	7672	21.8	62.0	16.2	-3.8
上屋久町	8054	22.9	61.8	15.3	7178	21.4	59.7	18.9	-10.8
屋久町	7020	23.5	62.7	13.7	6682	21.3	61.5	17.1	-4.8
大和村	2419	22.5	56.6	21.0	2251	19.0	58.1	22.9	-6.9
宇検町	2473	18.9	57.4	23.7	2492	19.4	53.5	26.6	0.8
瀬戸内町	13269	20.7	59.1	20.2	12566	20.2	55.8	24.0	-5.2
住用村	2039	24.3	55.5	20.2	1925	20.3	55.4	24.4	-5.5
竜郷町	6183	22.2	59.5	18.3	5967	20.7	57.0	22.2	-3.4
笠利町	8651	23.3	58.0	18.7	7795	21.2	56.3	22.5	-9.8
喜界町	10591	21.9	57.2	20.9	9641	20.4	55.0	24.6	-8.9
徳之島町	15321	25.2	50.0	15.8	14536	23.9	57.4	18.7	-5.1
天城町	8485	24.2	59.7	16.0	7874	22.2	57.7	20.1	-7.2
伊仙町	9826	23.3	59.2	17.5	8821	22.5	56.0	21.5	-10.2
和泊町	8653	22.9	58.0	19.0	8188	21.4	56.4	22.2	-5.3
知名町	8165	23.5	58.4	18.1	7768	22.7	56.4	20.9	-4.8
与論町	7222	27.2	57.1	15.6	6704	24.1	57.5	18.3	-7.1

2. 下甑村高年者生活調査

すでに述べたように高齢化の進む鹿児島県でも南薩の大浦町・笠沙町・坊津町とこの下甑村をふくむ甑島が高齢化がもっとも進んだ地域である。南薩と甑島は地形が似ておりまとまった耕地に乏しく半農半漁で生活が営まれていた。昔からの出稼ぎ地域であり、とくに若いときは県外に働きにでて歳をとって帰ってくるという人が少なかった。船員などはその典型である。この調査は著書も専門委員として参加した下甑村長期振興計画策定のため、下甑村が実施したものである⁽⁷⁾。策定の過程で行った基礎調査と併せて下甑村の過疎と高齢化の実状を見て

いく。離島という特殊な条件ながら鹿児島県のもっとも高齢化の厳しい状況についてみていきたいと思う。

(1) 下甑村の概要

下甑村は東シナ海に浮かぶ甑島列島の南部・下甑島の大半を占めている。面積 1.58平方km。串木野市から53kmでここから甑島航路がでている。フェリーが1日1往復・高速艇2往復が運行しているが北部の里村や上甑村と違って鹿児島市からの日帰りは困難である。急傾斜のまま山が海岸線まで迫り平坦地に乏しい。河川は比較的多く河口付近に港湾がありその付近が平坦地として利用されている。耕地は段々畑が多く最大限に利用されていたが、過疎化とともに傾斜地の段々畑から荒廃が進んでいる。村では土地基盤整備や土地改良につとめ特産のカノコユリや畜産の振興につとめている。漁業は第二次大戦前後までイワシの大漁が続き江戸期にはイワシ世間といわれる賑わいを見せていた。サンゴの採集やマグロ漁が盛んに行われた時期もあったが、近年では沿岸漁業がしだいに振るわなくなった上に近代化も遅れている。

人口は平成2年の国勢調査で世帯数1,419戸・人口3,247人(男1,581人・女1,666人)・一世帯あたり2.29人と世帯規模がきわめて小さい。人口は昭和60年から9.2%減少し鹿児島県内で10番目の減少率である。ちなみに一位は同じ甑島の上甑村で12.7%の減少である。昭和20年13,670人をピークに昭和35年8,237人から大幅に減少を見せている。昭和55年から60年の減少は4.7%に留まったものの再び減少に加速がついている。

島内に高等学校がなく中学卒業とともに島外に若者がでていく。Uターン者は年20人程度いるが雇用の場が少ない。若い女性の流出にともない嫁不足も深刻である。平成2年成人式で20歳の若者30人のうち地元で働くものは一人もいなかった。児童数の減少に伴い昭和53年から58年までに6校の中学校が2校に・6校の小学校が5校に統合されている。また小学校1校が平成5年度までに10人を割るとみられ最大の小学校も一部複式化が予想されている。出生数は昭和50年からあまり変わらず30人前後で推移している。死亡数は55人前後と大きく上回り人口の自然減が続いている。

人口の減少にともない就業者は昭和35年の3,634人(就業率42.0%)から60年の1,566人(43.8%)までに減少している。35年から45年に1,533人の大幅な減少があったが50年から60年は72人ととどまっている。昭和60年の産業別人口は第一次459人(29.3%)・第二次295人(18.9%)第三次812人(51.8%)である。昭和45年から第一次が50.6%減・第二次13.5%増・第三次17.9%増である

農業は平成2年度農林業センサスで農家戸数210戸・農家人口555人である。今回のセンサスで農家の定義が変更されているが、昭和60年農家数を今回に合わせ組み替えると262戸・専業56戸から47戸・一次兼業41から11・二次兼業165から152戸に減少している。農家210戸のうち自給的農家が164戸と約8割を占める。また30アール以下の農家が168戸で同じく8割。米を中心に甘藷・かぼちゃ・カノコユリなどを生産している。畜産農家が19戸で肉用牛183頭の肥育を行っている。

漁業は沖合い漁業の不振から沿岸に集中した操業が行われている。平成1年度の経営体は126で、うち一本釣り・刺し網・建て網などの漁船操業が8割を占める。5t未満の中小漁船がほとんどである。水揚げ高は4億6,554万円のうち地引・定置網が2億5,258万円で54%を占める。経営体の多い一本釣り刺し建て網は1億1,726万円にすぎない。漁船漁

業がきわめて零細であることがわかる。定置網漁業は自然状況に左右されやすく好不漁の差が大きく設備投資や漁場の制約もあってこれ以上増やせない状態である。

高齢化の状況を見ると平成元年5月の人口3,414人に対して65歳以上が1,016人29.7%である。とくに瀬々野浦地区は人口348人に対して168人48.3%となっている。世帯数1,460世帯のうち高齢者の単独世帯が282世帯(19.3%)・高齢夫婦のみの世帯が185世帯(12.7%)をしめる。養護老人ホーム(定員50)がある。ねたきり老人は66名で家庭奉仕員6人老人訪問員50人で対応している。

(2) 高年者調査の概要

シルバーアンケート(高年者)調査は下甕村の60歳以上の高年者を対象に、住民基本台帳から4分の1を無作為に332名を抽出した。平成2年1月に質問紙留置法で実施し、有効回収数309・有効回収率93.1%であった。有効回収309のうち男性が125(40.5%)・女性184(59.5%)、60～64歳が21.0%・65～69歳22.3%・70～74歳18.4%・75～79歳20.4%・80歳以上17.8%である。

家族構成は一人暮らしが81(21.2%)・夫婦のみ148(47.9%)・夫婦と子ども33(10.7%)・片親と子ども23(7.4%)・三世代(本人と子どもと孫)17(5.5%)・その他7(2.3%)となっている。なお65歳以上だけでは一人暮らし70(28.7%)・夫婦のみ110(45.1%)・夫婦と子ども23(9.4%)・片親と子ども20(8.2%)・三世代16(6.6%)・その他5(2.3%)となっている。一人暮らしと夫婦のみの世帯が4分の3を占めている。一人暮らしは女性に多く対象女性の37.5%をしめている。男性では66.4%が夫婦のみである。女性では43.5%が配偶者がいるが、男性では80.8%である。

(3) 家族状況

子どもと同居している対象者は23.6%にすぎない。別居は63.8%・子どもなしが12.0%である。男性で同居22.4%・女性24.5%とあまり差はない。男性では年齢で同別居の違いは少ないが、女性では60代で同居が少なく80代以上では多くなっている。男性では夫婦のみが圧倒的に多いためである。できるだけ夫婦のみの暮らしで一人になって同居するという傾向が女性ではでている。なお、家族形態でその他としたものはいずれも子どもとは同居しない。兄弟姉妹のみが多い。

子どもと同居している73について同居子は長男32.4%・長男以外の息子46.4%・長女6.8%・長女以外の娘21.9%となっている。厚生省人口問題研究所の調査や著者が実施した調査では、鹿児島県の郡部の場合いずれも息子との同居が多いが、長男に限られているのが特徴である。

子どもと別居している197について子どもと会うための所要時間は半日以上67.5%・1時間から半日まで4.6%・30分から1時間以内3.6%・10分から29分2.0%・10分以内10.2%・隣に住んでいる8.6%である。約2割程度は集落内に居住していると見られるが、全体の3分の2は島外にいるとみて良い。一人暮らしの71.1%・夫婦のみの65.2%が半日以上離れて子どもと別居している。この1～2年の間に会った頻度はほとんど毎日15.7%・週1回以上3.6%・月1～2回8.6%・年1～2回45.7%・ほとんど会っていない23.4%となっている。遠方にいるケースのほとんどが年1～2回かほとんど会っていない状況で

ある。一人暮らしでは年数回41.7%・ほとんど会わない23.4%、夫婦のみでは年数回48.5%・ほとんど会わない19.7%となっている。別居している理由（複数回答）は子どもの職場が遠く離れている58.4%・子どもが結婚して他家にいる26.9%・気楽に暮らしたい15.7%・子どもと別々に暮らすのが自然13.7%となっている。

表 2 - 1 家族類型

	サ ン プ ル 数	あ な た 一 人 だ	あ な た と 配 偶 者 の 二 人 だ け	あ な た と 配 偶	あ な た と 子 供 偶 者 と 子 供	あ な た 一 人 と 子 供	あ な た と 孫 と 子 供	そ の 他
全 体	10.0 309	26.2 81	47.9 148	10.7 33	7.4 23	5.5 17	2.3 7	
男 性 計	100.0 125	9.6 12	66.4 83	14.4 18	3.2 4	4.8 6	1.6 2	
60～64歳	100.0 29	10.3 3	55.2 16	24.1 7	3.4 1	3.4 1	3.4 1	
65～69歳	100.0 29	3.4 1	72.4 21	20.7 6	—	3.4 1	—	
70～74歳	100.0 20	5.0 1	75.0 15	20.0 4	—	—	—	
75～79歳	100.0 21	19.0 4	66.7 14	—	—	9.5 2	4.8 1	
80歳以上	100.0 26	11.5 3	65.4 17	3.8 1	11.5 3	7.7 2	—	
女 性 計	100.0 184	37.5 69	35.3 65	8.2 15	10.3 19	6.0 11	2.7 5	
60～64歳	100.0 36	22.2 8	61.1 22	8.3 3	5.6 2	—	2.8 1	
65～69歳	100 40	30.0 12	47.5 19	5.0 2	5.0 2	7.5 3	5.0 2	
70～74歳	100.0 37	48.6 18	27.0 10	16.2 6	5.4 2	2.7 1	—	
75～79歳	100.0 42	50.0 21	19.0 8	4.8 2	11.9 5	9.5 4	4.8 2	
80歳以上	100.0 29	34.5 10	20.7 6	6.9 2	27.6 8	10.3 3	—	

(4) 生活状況

就労状態について収入のある仕事についているものは53名（17.2%）・ついていない252名（81.6%）である。男性では仕事についているもの32名（25.6%）、女性では21名（11.4%）である。65歳以上では収入のある仕事についているもの30名（12.3%）、男性で18名（18.8%）・女性12名（8.1%）である。仕事の内容は農林漁業が16名（30.2%）・商工サービス自営13名（24.5%）・事務技術職2名（3.8%）・労務職11名（20.8%）・内職3名（5.7%）などとなっている。男性では農林漁業が12名（37.5%）と多く、女性では商工サービス自営の10名（47.6%）がもっとも多い。農林漁業の場合でも70歳未満が16人中14名で、収入のある仕事としては70歳がほぼ限界である。

健康状態は健康が103名（33.3%）・あまり健康とはいえない169名（54.7%）・寝たり

過疎と高齢化 - 鹿児島県下甕村高年者調査 -

起きたり29名(9.4%)・6カ月以上寝たきり7名(2.3%)となっている。6カ月以上寝たきりの7名のうち6名は女性で、7名全員が75歳以上である。なお平成元年の下甕村の調査では寝たきり老人は66名となっている。健康とする人は男性で35名(28.0%)・女性68名(37.0%)である。80歳以上の55名のうち16名が寝たり起きたり・3名が寝たきりである。全体に女性の方が健康状態は良いが、寝たきりや寝たり起きたりの36名のうち21名が女性である。

表2-2 健康状況

	サンプル数	健康	はいえ ない あまり健康と	寝たり 起きた りの状態	6 カ 月 以 上 寝 た き り	無 回 答
全 体	100.0 309	33.3 103	54.7 169	9.4 29	2.3 7	0.3 1
男 性 計	100.0 125	28.0 35	59.2 74	11.2 14	0.8 1	0.8 1
60~64歳	100.0 29	48.3 14	48.3 14	- -	- -	3.4 1
65~59歳	100.0 29	27.6 8	62.1 18	10.3 3	- -	- -
70~74歳	100.0 20	15.0 3	75.0 15	10.0 2	- -	- -
75~79歳	100.0 21	28.6 6	66.4 14	- -	4.8 1	- -
80歳以上	100.0 26	15.4 4	50.0 13	34.6 9	- -	- -
女 性 計	100.0 184	37.0 68	51.6 95	8.2 15	3.3 6	- -
60~64歳	100.0 36	44.4 16	52.8 19	2.8 1	- -	- -
65~69歳	100.0 40	35.0 14	57.5 23	7.5 3	- -	- -
70~74歳	100.0 37	54.1 20	45.9 17	- -	- -	- -
75~79歳	100.0 42	28.6 12	54.8 23	9.5 4	7.1 3	- -
80歳以上	100.0 29	20.7 6	44.8 13	24.1 7	10.3 3	- -
あなた一人だけ	100.0 81	37.0 30	60.5 49	2.5 2	- -	- -
あなたと配偶者の二人だけ	100.0 148	35.8 53	52.7 78	10.1 15	1.4 2	- -
あなたと配偶者と子供	100.0 33	30.3 10	57.6 19	12.1 4	- -	- -
あなた一人と子供	100.0 23	21.7 5	47.8 11	13.0 3	13.0 3	4.3 1
あなたと子供と孫	100.0 17	23.5 4	41.2 7	23.5 4	11.8 2	- -
そ の 他	100.0 7	14.3 1	71.4 5	14.3 1	- -	- -

一人暮らしでは健康が30名(37.0%)・あまり健康でない49(60.5%)・寝たり起きたり2(2.5%)、夫婦のみでは健康53(35.8%)・あまり健康でない78(52.7%)・寝たり起きたり15(10.1)・6カ月以上寝たきり2(1.4%)となっている。子どもと同居している世帯の方が健康状態は良くないが健康状態が良くないから子どもと同居しているといえよう。しかし、寝たり起きたりの29名のうち15名は夫婦のみの世帯であり数の上ではもっとも多い。配偶者に大きな負担がかかっている。

表2-3 不安感

	サンプル数	感じる 非常に不安を	を感じる いくらか不安	あまり不安を 感じない	ほとんどまっ たく不安を感 ぜない	わからない
全 体	100.0 125	8.0 31	40.5 125	31.4 97	17.5 54	0.6 2
男 性 計	100.0 125	8.0 10	40.8 51	33.6 42	16.8 21	0.8 1
60~64歳	100.0 29	3.4 1	44.8 13	34.5 10	17.2 5	- -
65~69歳	100.0 29	6.9 2	34.5 10	37.9 11	20.7 6	- -
70~74歳	100.0 20	10.0 2	40.0 8	40.0 8	10.0 2	- -
75~79歳	100.0 21	14.3 3	38.1 8	28.6 6	19.0 4	- -
80歳以上	100.0 26	7.7 2	46.2 12	26.9 7	15.4 4	3.8 1
女 性 計	100.0 184	11.4 21	40.2 74	29.9 55	17.9 33	0.5 1
60~64歳	100.0 36	- -	52.8 19	38.9 14	8.3 3	- -
65~69歳	100.0 40	15.0 6	42.5 17	25.0 10	17.5 7	- -
70~74歳	100.0 37	13.5 5	40.5 15	29.7 11	16.2 6	- -
75~79歳	100.0 42	14.3 6	35.7 15	28.6 12	19.0 8	2.4 1
80歳以上	100.0 29	13.8 4	27.6 8	27.6 8	31.0 9	- -
あなた一人だけ	100.0 81	11.1 9	42.0 34	27.2 22	19.8 16	- -
あなたと配偶者の二人だけ	100.0 148	6.1 9	45.3 67	33.1 49	15.5 23	- -
あなたと配偶者と子供	100.0 33	21.2 7	30.3 10	30.3 10	18.2 6	- -
あなた一人と子供	100.0 23	17.4 4	34.8 8	21.7 5	21.7 5	4.3 1
あなたと子供と孫	100.0 17	- -	29.4 5	47.1 8	23.5 4	- -
そ の 他	10.0 7	28.6 2	14.3 1	42.9 3	- -	14.3 1

毎日の生活で不安を感じることがあるかという質問に対して非常に感じる31名(10.0%)・いくらか感じる125名(40.5%)・あまり感じない97名(31.4%)・ほとんど感じない54名(17.5%)となっている。非常に感じるは夫婦と子ども(21.2%)と片親と子ども(17.4%)が多いが、これは子と同居している人に健康状態がよくないものが多いことと高齢者が多いことが関係していると思われる。いくらか感じるは一人暮らしで42.0%・夫婦のみで45.3%が多い。一人暮らしや夫婦のみでは差し迫った不安ではないにしても将来に対する漠然とした不安があるようだ。過疎地域の高齢者は一般に生活の満足度は高いが、不安感もたかい。非常にといくらか不安を感じるをあわせると半数以上を超えている⁽⁸⁾。

(5) 考 察

以上の調査結果からつぎのような結果を得た。

1. 一人暮らしや夫婦のみの世帯がきわめて多く、こうした状況では在宅介護も重要であるが、特別養護老人ホームなどの建設が必要である。他方で在宅の要介護老人をかかえる家庭の負担も大きくそれをサポートするシステムも必要になる。
2. 子どもと同居できない世帯が多く子どもとの交流もままならないことが多い。県外にでた子どもとのつながりを強化することが必要である。帰省を義務でなく楽しみとするような方策が必要である。
3. 一般に過疎地域に住む高齢者の不満はとにかくも生活ができることからさほど高いものではない。しかし子どもとの同居が少なく孤独感から漠然とした不安をもっていることが多い。とくに健康についての不安をもっていることが多くこれを解消することが重要である。

- (1) 旧過疎振興法では昭和50年の国勢調査人口が昭和35年人口に対して25%以上減少しており、かつ昭和51年までの各年度の財政力指数の平均が0.37以下を過疎市町村としていた。過疎地域活性化特別措置法(新過疎法)では過去4年度の財政力指数が0.44以下で、平成2年国勢調査人口に対して次のいずれかに該当すること。1. 過去25年間の国勢調査人口で人口減少率25%以下。2. 人口減少率20%以下で65歳以上の割合が16%以下。3. 人口減少率が30%以下で15歳から30歳までの人口が16%以下。国土庁地方振興局過疎対策室『平成3年度版過疎対策の現状』、10頁参照。
- (2) 特別養護老人ホームなどの人口あたりの割合に都道府県でかなりの差がある。一般世帯にすむ割合を考慮することで施設整備の影響を排除できる。表1-2の65歳以上人員率にその数値を示した。
- (3) 厚生省人口問題研究所、『人口の高齢化に関する生活構造の変化に関する調査』、昭和54年。
- (4) 拙著(共著)、『鹿児島市における家族生活の関する総合調査報告書』鹿児島女子短期大学附属南九州地域科学研究所(以下南地研と略す)所報、昭和59年。
- (5) 拙著、「喜界島における高年者の生活と意識」、鹿児島女子短期大学南地研所報第2号、昭和60年。
- (6) 未発表。現在、調査継続中である。

- (7) 鹿児島県下甕村、『新総合計画書』、1992年。
- (8) 拙著、「喜界島における高年者の生活と意識」でも同じ結果を得ている。

参 考 文 献

岩本純明・神田嘉延、「鹿児島県坊津町」、総合研究開発機構編、『高齢化の現状と将来展望』、1985年。

豊田謙二・山本賢治、「過疎における高齢者の生活と意識－鹿児島県宇検村の事例より－」、鹿児島経済大学地域総合研究第16巻第2号、1988年。

高根仁・染谷淑子・岩本純明、「農村における高齢者の生活と課題－鹿児島県大浦町の実態調査から－」、鹿児島県地方自治研究所、1987年。